

# 高校公民プリント（過去問類似）

## 西洋の近現代思想 No.1

名前

得点

/10

**問1** 近代社会において、規則に基づく専門的な分業や階層的な組織運営によって効率性を追求する管理体制が、社会全体を覆うことで個人の自由や主体性を抑圧する危険性について、ドイツの社会学者ウェーバーが指摘したこの組織形態を何というか。

(2016年 全国公立入試 類似)

1. 分業制                      2. 官僚制                      3. 階層制                      4. 集権制

**問2** 共同体全体の共通の利益を目指す「一般意志」に対し、個人が私利私欲を追求する「特殊意志」は対立することがある。このとき、一般意志への服従を拒む者は、共同体全体によって服従を強制されることで、かえって「自由であるように強制される」と主張し、人民主権に基づく直接民主制を理想としたフランスの思想家は誰か。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. ロック                      2. ルソー                      3. グロティウス                      4. ホッブズ

**問3** ヘーゲルの人倫の弁証法的発展において、自然な愛情で結ばれた最初の段階である「家族」と、個人の独立性と欲望が対立する「市民社会」の矛盾が止揚（アウフヘーベン）され、個人の自由と共同体の福祉が最高度に調和した、人倫の完成形態とされる共同体を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 道徳                      2. 国家                      3. 家族                      4. 人倫

**問4** ドイツの詩人・思想家であるゲーテの自然観に強い影響を与えた、神と自然（世界）を同一視し、万物に神が宿るとする世界観を何というか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 無神論                      2. 理神論                      3. 汎神論                      4. 唯物論

**問5** 快楽の量のみを重視する従来の功利主義を批判し、精神的な自己実現や高い知性を伴う満足など、快楽の質的な差異を重視する立場を何というか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 客観的観念論                      2. 質的功利主義                      3. 量的功利主義                      4. 絶対的観念論

**問6** フランスの思想家モンテーニュは、宗教戦争による混乱と対立を背景に、自らの独断を排して謙虚に生きることを求めた。彼が自らの無知を自覚し、理性の限界を省みるために発した、「私は何を知っているか」を意味する言葉は何か。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. ア・プリオリ                      2. タブラ・ラサ                      3. ク・セ・ジュ                      4. ダス・マン

**問7** 近代以降、人間は自然を客体化し、科学技術を用いてこれを作為的に支配してきた。しかし、フランクフルト学派の思想家たちは、このような自然支配の手段となった近代の理性が、やがて人間自身や社会をも効率的に管理・支配する抑圧的な道具へと変質したと批判した。このように、目的のための効率的な手段や道具として機能するようになった近代の理性を何と呼ぶか。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 批判的理性                      2. 対話的理性                      3. 道具的理性                      4. 批判的理論

**問8** 実定法の正当性や善悪を判断する外部の批判的視点の一つであり、社会全体の幸福や効用を最大化することを法や制度の評価基準とする、18～19世紀のイギリスで発展した思想を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 功利主義                      2. 合理主義                      3. 実用主義                      4. 経験主義

**問9** ホルクハイマーやアドルノらによって批判された、自然や他者を自己の目的のために効率的に制御・支配しようとする、近代科学技術の発展と結びついた理性のあり方を何というか。 (2009年 全国公立入試 類似)

1. 対話的理性                      2. 道具的理性                      3. 主観的理性                      4. 批判的理性

**問10** カントが説いた内面的な道徳（道徳性）は主観的なものにとどまると批判し、法という外的な規範と道徳という内面的な規範が、家族・市民社会・国家という現実の共同体において統合された状態を、ヘーゲルは何と呼んだか。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 精神                      2. 人倫                      3. 理性                      4. 止揚

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 2 官僚制	ウェーバーは、近代社会の合理化に伴って発達した、規則による支配と専門的な分業を特徴とする組織形態が、人間を機械の歯車のように管理・支配し、個人の主体性や創造性を奪う危険性を指摘した。
問2	答え 2 ルソー	ルソーは著書『社会契約論』において、私利私欲を追求する「特殊意志」やその単なる総和である「全体意志」とは区別される、共同体全体の共通善を志向する「一般意志」を提唱した。市民が一般意志に従うことは、自らが定めた法に従うことであるため、真の自由の獲得を意味する。そのため、一般意志に背く個人に対して共同体が服従を強制することは、その個人を真に自由な存在にすること、すなわち「自由であるように強制される」ことを意味すると論じた。
問3	答え 2 国家	ヘーゲルは、人倫の発展段階を「家族」「市民社会」「国家」の三段階で捉えた。家族は自然な愛情に基づく共同体であるが、個人の独立性がない。市民社会は個人の独立性と欲望が追求される場であるが、利害の対立や貧困が生じる。これら二つの矛盾を弁証法的に統合（止揚）し、個人の自由と共同体の普遍的な利益がともに実現される最高の人倫の共同体が国家である。
問4	答え 3 汎神論	スピノザによって体系化されたこの世界観は、神を世界を超越した存在としてではなく、世界そのもの、あるいは自然そのものとして捉える。ゲーテはこの考え方に深く影響を受け、自然を生命力に満ちた有機体として捉える独自の自然観を構築した。
問5	答え 2 質的功利主義	ジョン・スチュアート・ミルによって提唱された思想である。ベンサムが快楽をすべて数量的に計算できるとしたのに対し、ミルは快楽には精神的な「質」の差があると主張し、より高次の精神的快楽を追求することを重視した。
問6	答え 3 ク・セ・ジュ	モンテーニュは、独断や偏見に陥る人間を批判し、自らの知識や理性を疑う懐疑主義の立場をとった。その姿勢を象徴するのが「私は何を知っているか」を意味する「ク・セ・ジュ」という問いであり、これは自己の無知を自覚しつつ真理を探究し続ける謙虚な態度を示している。
問7	答え 3 道具的理性	ホルクハイマーとアドルノは、共著『啓蒙の弁証法』において、本来は人間を迷信や神話から解放するはずであった理性が、自然を客体化して技術的に支配するための手段（道具）へと変質したと指摘した。この理性が、社会の組織化や管理を通じて人間自身をも抑圧・支配する力となったことを批判的に捉えた概念である。
問8	答え 1 功利主義	法律や制度が適切であるかどうかを、単に既存のルールに従うこと（実定法主義）ではなく、それがもたらす結果としての幸福の量によって吟味する立場である。ベンサムは「最大多数の最大幸福」を掲げ、法や政治の改革を推進する基準としてこの思想を提示した。
問9	答え 2 道具的理性	フランクフルト学派の思想家たちは、近代の啓蒙主義がもたらした理性が、本来の人間解放の目的を見失い、管理社会や全体主義をもたらす支配の道具へと変質したことを批判した。このような、目的のための手段の有効性のみを追求する理性を「道具的理性」と呼ぶ。
問10	答え 2 人倫	ヘーゲルは、カントの説く道徳性を主観的なものとして批判し、客観的な法と主観的な道徳が、家族、市民社会、国家という現実の共同体において統合された「人倫」においてこそ、真の自由が実現されると説いた。